

平成31年度入学式告辞

九州工業大学長 尾家 祐二



ご入学おめでとうございます。

春爛漫の今日、ここに入学式を挙行するにあたり、栄えあるこの日を迎えられる皆さんに、心からお祝いを申し上げます。そして、これまでのご努力に敬意を表します。九州工業大学に皆さんを迎えることができましたことは、この上ない喜びであります。ご列席のご家族の皆様におかれましても、お喜びのことと拝察致します。教職員を代表してお祝い申し上げます。

これから皆さんが学ばれる九州工業大学は、1909年に開校した私立明治専門学校を前身としています。

創立者は、安川敬一郎氏です。我が国の産業の礎となった北九州及び筑豊地域で安川電機の設定など様々な産業を興された経済界の重鎮です。今年が開校110周年を迎えます。

明治時代の日本は、産業面、経済面において、当時の世界の大国からは、大きく後れをとっていたため、国家を支える人材育成が必要でした。安川先生は、「国家によって得た利益は国家のために使うべきである」という信念から巨額の私財を投じ、我が国の産業の振興を支える技術者を育成する明治専門学校を創設されました。

安川先生は明治専門学校のご教育と研究を、東京帝国大学総長であられた山川健次郎先生に託されました。山川先生は、開校式において、明治専門学校を「技術二通ジテイルジェントルマンヲ養成スル学校デアル」と宣言され、品格と創造性をもつ人材を輩出することを目指されました。

この山川先生の志は、「技術に堪能なる士君子」の養成という本学の建学の理念として、100年以上の歴史を超えて脈々と伝えられ、現在に至っています。新入生の諸君は「技術に堪能なる士君子」という言葉をこの場で覚えていただきたいと思います。

さて、皆さんがこれから学ぶ科学

技術は、これまで社会生活に大きな影響を与えてきました。実際に、20世紀においては、電気、情報、通信、自動車等の様々な技術が社会システムや経済システムに大きな影響を及ぼし、著しい変化を引き起こしました。そして、21世紀はAIやバイオテクノロジー（生物工学）等が、様々な分野に影響を及ぼすことでしょう。「サピエンス全史」や「ホモ・デウス」の著者であるユヴァル・ノア・ハラリは、科学技術が著しく発展し続け、それによって社会システムなどが大きく変化し続ける未来について次のように述べています。「従来の生活様式では、人生は2つの時期に分かれていました。最初は『学ぶ時期』、次に『学んだことを使う時期』です。最初の時期に安定したア

イデンティティとスキルが確立され、あとはそれを使うだけでした。

しかしこれは、21世紀では通用しません。われわれは絶えず学習し、自己革新をしなければならぬのです」と（ジャレド・ダイアモンド他著「未来を読むーAIと格差は世界を滅ぼすか」PHP新書刊）。

それでは、学び続けることで、私たちの何が変化し、私たちは何を獲得しているのでしょうか？ 私たちの脳と「4万年前の人間の脳に、構造的な相違はほとんどない」と言われています。しかし、4万年前と今の生活は全く異なります。脳の構造は同じでも、それをどのように活用するかによって、脳の働きは大きく異なってきます。すなわち、脳を構成する100億個以上の脳の神経細胞（ニューロン）が数多くのシナプスによってどのように接続されるかが重要になります。例えば、「私たちはけっして、生まれながらにして文字を読めたわけでは」ありません。「人類が文字を読むことを発明したのは、たかだか数千年前」です。生まれた後の学習によって、脳におい

て、新たな接続ができ、文字を読むことができるようになりました（メリアン・ウルフ著「ブルーストとイカ 読書は脳をどのように変えるのか？」合同出版参照）。

学び続けることによって、皆さんの脳の回路を変化させたり、既存の回路の使い方を変化させて、自分の能力と可能性を開花させることができます。そして、そのことは皆さんの個性をより豊かなものにしていくでしょう。大学および大学院では、専門的な知識やスキルの修得とともに、それらを活かす能力を身につけて、学び続けることの大切さも理解して欲しいと思います。

そのために、本学では、教室における学習だけでなく、海外の協定校での研修や海外にある企業でのインターシップ、学生自らが企画・実施していく学生プロジェクトなどの多様な学習機会を提供するとともに、3Dプリンタ等を備えたモノづくり工房、留学生とともに生活する寮など多様な学習環境を整備しています。実際に、1年間で600名以上の学生諸

君が海外における学習を経験していきますし、毎年20程度の学生プロジェクトが実施されています。

先ほど述べましたように、今年、本学は創立110周年を迎えます。伝統は築きあげていくものです。皆さんの学びによって本学の新たな伝統が築かれていきます。入学された皆さんが、健康に十分留意され、知を好む人たちが集まるこの大学で、様々な学習機会と環境を活用し、多くの事を試み、意義ある大学生活もしくは大学院生活を過ごされますことを心から希望致しまして、告辞と致します。本日は誠にありがとうございます。

